

氏名	松 香 陽 子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3864号
学位授与の日付	平成15年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Differential Responses of Serum Gamma-glutamyltransferase to Alcohol Intake in Japanese Males (日本人男性におけるアルコール飲用に対する血清ガンマ・グルタミルトランスフェラーゼの反応の相異)
論文審査委員	教授 白鳥 康史 教授 小出 典男 教授 石津 日出雄

学位論文内容の要旨

1,043名の健康な日本人男性集団において、飲酒量とガンマ・グルタミルトランスフェラーゼ (GGT) およびその他の肝障害マーカーとの関係を検討した。飲酒者では年齢を補正しても非飲酒者に比し、東大式アルコール感受性テスト (TAST) スコア、UA、AST、T-Bil、D-Bil、LAP、GGT、HDL-Cが有意に高値であり、一日アルコール消費量 (DAC) 70g (純エタノール換算) 以上の多量飲酒者は、DACが70g未満の中等量飲酒者に比し、TASTスコア、UA、AST、LAP、GGTが有意に高かった。多量飲酒者のうちGGT高値 (レスポonder) の群では、GGT正常 (非レスポonder) の群に比べ、AST、LAPの高値も認められた。全飲酒者ではDACとlog GGT ($r = 0.432$)、log AST ($r = 0.244$)、log LAP ($r = 0.246$) の間に正の相関を認め、中等量飲酒者でもDACとlog GGT ($r = 0.426$)、log AST ($r = 0.247$)、log LAP ($r = 0.216$) の間に正の相関を認められたが、多量飲酒者では逆にDACとlog GGT ($r = -0.434$)、log AST ($r = -0.424$)、log LAP ($r = -0.430$) の間に負の相関を認められた。多量飲酒者ではTASTスコアと飲酒量との間に負の相関の傾向を認め、TASTスコアとGGTの間には正の相関の傾向を認められた。TASTスコアの正負はDACとGGTとの相関に影響を与えなかった。本研究で、血清GGTが飲酒によって上昇する群 (レスポonder) と、多量飲酒にも拘らず正常範囲に止まる群 (非レスポonder) の2つのグループの存在が明らかになった。

論文審査結果の要旨

1,043名の健康な日本人男性集団において、飲酒量とガンマ・グルタミルトランスフェラーゼ (GGT) およびその他の肝障害マーカーとの関係を検討した結果、次の2点が結論付けられた。

1. 通常の飲酒者を対象とした本研究で、多量飲酒者においては、一日アルコール消費量と血清GGTレベルとは負の相関を示した。
2. 飲酒に対して異なった反応を示す2群、すなわちGGT上昇群 (レスポonder) とGGT正常群 (非レスポonder) を認めた。

本研究で、血清GGTが飲酒によって上昇する群 (レスポonder) と、多量飲酒にも拘らず正常範囲に止まる群 (非レスポonder) の2つのグループの存在が明らかになった。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。